

平成30年7月24日

地方独立行政法人山梨県立病院機構
理事長 小俣 政男

平成29年度の決算と今後の取り組み

平成29年度の決算が整いましたので、決算の状況及び今後の取り組みについてご報告いたします。

A) 決算の状況

平成29年度は、第2期中期計画期間の3年目ではありますが、前年度と比較して、経常利益は2億7,800万円増の20億9,900万円と、純利益は1億1,400万円増の17億3,400万円となりました。

経常利益、純利益ともは地方独立行政法人化後8年間で最多となりました。

B) 病院の現状と展望

① 救命救急医療体制の充実・強化

中央病院の救命救急センターでは、各消防本部からの要請により、24時間体制で3次救急患者を受け入れおりましたが、2次救急患者や他の病院等で受け入れることができなかつた3次救急以外の本来救命救急センターの対応症例でない患者についても受け入れております。

このような状況の中、増加する救急患者さんへの対応、三次救急以外の患者さんを診察するスペースを確保するため、救命救急センター改修に向けた取り組みに着手したところです。

また本年1月には、中央病院の屋上ヘリポートに給油基地が完成し、給油時間の短縮につながったことから、ドクターヘリの効率的な運航が図られております。

今後とも山梨県の基幹病院として、セーフティーネットの役割も果たして参ります。

② がん医療への取り組み

平成29年5月からは遺伝子外来をスタートさせ、がんの可能性がある患者さんの血液などから遺伝子を検査し、最も効果的な治療方法を選択することが可能になりました。

また、平成30年度の組織改正において、外注していた遺伝子検査を院内で迅速処理するため、検査部にゲノム検査科を設置しました。

さらに、本年4月東京大学医学部附属病院を中核病院とする、がんゲノム医療連携病院に指定されました。今後、東京大学医学部附属病院と連携して遺伝子解析の結果について多職種で構成される専門家会議に参加し、将来のがん発症リスク、適合する治療薬の有無等について、他の連携病院とともに検討を行っていくこととなりました。

今後とも都道府県がん診療連携拠点病院として、がん医療の質の向上に努めて参ります。

③ 先進医療への取り組み

県立中央病院では平成28年3月に低侵襲手術支援ロボット da Vinci Xi を導入しました。前立腺がんについては、平成30年3月末までに62例の手術を実施し、平成28年4月から保険適用となった腎臓がんについては、平成30年3月末までに20例の手術を実施しました。また、平成30年度の診療報酬改定において、胃がん、子宮体がんをはじめ多くのロボット手術が保険収載されたため、保険収載後速やかに対応できるよう指導医の招へいや物品の購入など準備を進めているところです。da Vinci Xi で手術することにより、従来の手術と比較して患者さんへの身体の負担が少なく、入院期間も短縮されております。

また、白血病等の無菌状態での薬物治療を充実させるため、平成28年度に無菌室を1床整備し2床としたところです。平成29年度には新たに7床の整備に着手し、本年8月には完成する見込みであり、造血幹細胞移植を行った患者さんの治療に対応して参ります。

さらに、MFICUの移転等、妊婦の入院環境を改善した結果、MFICUの延べ入院患者数は、前年度と比べて213.3%増の1,554人と大幅に増加しました。

今後も独立行政法人制度の特性を活かし、高度で専門的な医療を提供

して参ります。

④ 県立北病院における精神科救急、児童思春期精神科、重症通院患者への医療の充実

北病院では、平成27年度から本格的に県の精神科救急医療体制の常時対応型病院として、救急患者を受け入れ、治療を行っています。

また、県内医療ネットワーク体制の中で唯一の児童思春期病棟を持つ病院として、平成29年4月より看護師配置を10:1へと手厚くするなど、病棟の機能強化を行いました。児童思春期の患者数は年々増加しておりますが、こころの発達総合支援センターとも連携を図り、こころの問題を抱えた子供の診療を専門的に行って参ります。

さらに、退院後、地域で生活する重症通院患者さんに適した医療を提供するため、訪問看護ステーションの設置、運営に関する準備を進めて参ります。

⑤ 世界標準を目指す若手医師集団の育成

平成30年度も16人の初期臨床研修医を採用し、初期臨床研修医36人、専修医24人、専攻医12人 計72人の若手医師が在籍しています。これは、当院の全医師206人の35%となります。

また、新専門医制度において、中央病院では内科、総合診療科、救急科、整形外科、北病院では精神科の専門研修基幹施設として、またその他の科では連携施設として、専攻医の専門医資格取得を人的及び物的に支援するため、専門研修プログラム作成などの準備を行い、平成30年度に開始することとなりました。現在12名の専攻医を受け入れております。

これら若手医師の教育は、将来にわたって山梨県の医療の質的及び量的な基盤になると考え、当機構に在籍する高度な知識と技術を有する医師の指導のもと日々の研鑽を積んでおります。

今後も、地域のみならず、世界で活躍する多くの医師を育成できる教育環境の整備を図って参ります。

⑥ 信頼される病院を目指して

県立病院機構では、良質な医療の提供や高度先進医療を推進し、県民の健康の確保と増進に寄与することを目指して、職員一丸となって日々

努めております。

昨年度、県立中央病院において「異型輸血医療事故」及び「薬剤紛失事案」が発生しましたが、それぞれの再発防止策を迅速に策定するなど、再発防止に向け万全な対策を講じて参りました。

県立中央病院及び県立北病院は、県の基幹病院として、先進医療を取り入れながら、職員一同“早くきれいに治す”を合言葉に、患者さんが一日も早く元気な姿でご家族の元にお帰りになれるよう取り組んで参る所存です。

今後ともご支援のほどお願い申し上げます。